

昭和大学病院麻酔科専門研修プログラム

(大都市圏あるいは大学のモデルプログラム)

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は、周術期の患者の生体管理を中心としながら、救急医療や集中治療における生体管理、種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において、患者の命を守り、安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで、国民の健康・福祉の増進に貢献する。

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは、人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え、生体の侵襲行為である手術が可能のように管理する生体管理医学である。麻酔科専門医は、国民が安心して手術を受けられるように、手術中の麻酔管理のみならず、術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う、患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである。同時に、関連分野である集中治療や緩和医療、ペインクリニック、救急医療の分野でも、生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし、国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う。

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

キーワードは、多彩な臨床経験、多様性、海外経験

- 東京・横浜にある昭和大学の4附属病院と専門性に秀でた医療機関とが連携し、都心部の病院を中心に、心臓麻酔、胸部麻酔、小児麻酔、産科麻酔などの多彩な症例を数多く経験できる麻酔科研修です。
- ペインクリニック、集中治療のローテーションは全員が経験します。希望者には学位取得や海外学会での発表などの道も開かれています。
- 立地の良さから外国人医師の講演が多く、居ながらにして海外経験ができます。
- 当コースには女性医師も多く、出産や子育てを行いながらキャリアを積めるような配慮がされています。

昭和大学の麻酔科研修を通じて人生の選択肢を広げてみませんか？

コースの特徴

- 大学病院が専門病院としっかり連携しているため、多様な専門性を持つ指導者がそろっていることが特徴です。
- ペインクリニック、集中治療のローテーションは必須（緩和医療は希望者）のため、手術室外での臨床経験も積むことができます。

- 手術麻酔に分野別の専門家がだけでなく、ペインクリニック、集中治療の領域にも国内外で著名な指導者がおり、手厚い指導が受けられます。
- 超音波ガイド下神経ブロックや人工呼吸、循環管理などでは、世界最先端の技術に触れることができ、専門医取得後もサブスペシャリティを確立する機会に多く恵まれています。
- 遠隔技術と映像システムを駆使して医療の質を管理しているので、安心して研修を行えます。
- 若いうちからの海外経験を重視し、海外での学会発表、海外病院への視察ができるように指導を行います。
- 希望者は学位取得を目指して、大学院への進学が可能です。大学院コースを選択して臨床に従事しながら臨床研究を進めるのであればその期間は専門研修期間として扱われます。
- 多様な専門家の指導を受けながらプロフェッショナルとして自分のやりたいことを見つけられる支援体制が本コースの特徴です。

本研修プログラムでは、専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成します。

麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されています。

3. 専門研修プログラムの運営方針

周囲から信頼され、患者の「命を守る」麻酔科医を育成することがプログラムの運営方針です。

常に予期せぬことが起こりえる医療現場において患者の命を守るには、しっかりとした事前準備に加えて多様性、柔軟性を備えた「不用意の用意」の心と、チーム医療においてリーダーシップを発揮できる高い倫理観や豊かな人間性が不可欠です。本プログラムではそれぞれの高度専門施設での臨床経験を通じて、上記の資質を段階的に養い、患者の命の最後の砦となれる麻酔科医を育成できる教育体制を提供します。

カリキュラムの前半は昭和大学病院を始めとした大学附属病院を中心に一般的な知識・技術を習得し、後半に連携する専門医療施設にて多彩な経験を積むことを基本とします。手術麻酔だけでなく、ペインクリニック、集中治療、希望者には緩和医療の研修を一定期間行います。ローテーションは各専攻医の希望に沿ったオーダーメイドのものとなります。下記の例を参照してください。

また、半年ごとに指導者とのフィードバック面談を行い、専攻医ひとりひとりの成長に合わせた教育体制をとります。

原則として、研修の前半2年間のうち1年間、後半2年間のうち6ヶ月は、専門研修基幹施設で研修を、さらに全期間中で6ヶ月は地域の研修連携施設で研修を行う。

研修実施計画例

	A (標準)	B (小児 重点)	C(心臓 重点)	D (集中治療重点)
初年度 前期	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院
初年度 後期	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院	昭和大学病院
2年度 前期	昭和大学病院 (ペイン)	関連病院	関連病院	昭和大学病院 (ペイン)
2年度 後期	昭和大学病院	関連病院	昭和大学病院 (ペイン)	関連病院
3年度 前期	関連病院	関連小児医療機関	関連病院 (心臓)	昭和大学病院 (集中治療)
3年度 後期	関連病院 (ペイン)	関連小児医療機関	関連病院 (心臓)	昭和大学病院 (集中治療)
4年度 前期	昭和大学病院 (集中治療)	昭和大学病院 (集中治療)	昭和大学病院 (集中治療)	関連病院
4年度 後期	昭和大学病院	関連病院 (ペイン)	関連病院	昭和大学病院

週間予定表

昭和大学病院ローテーションの例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	手術室	手術室	ICU	ペイン	休み
午後	手術室	術前外来	手術室	休み	ICU	休み	休み
当直			当直				

4. 研修施設の指導体制と前年度麻酔科管理症例数

本研修プログラム全体における総指導医数：46.3人

	合計症例数
麻酔科管理症例数	26,399症例
小児(6歳未満)の麻酔	1,262症例
帝王切開術の麻酔	1,490症例
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	911症例
胸部外科手術の麻酔	641症例
脳神経外科手術の麻酔	984症例

① 専門研修基幹施設

昭和大学病院

研修プログラム統括責任者：大嶽 浩司

専門研修指導医：大嶽 浩司

樋口 比登美

信太 賢治

小谷 透

三浦 倫一

尾頭 希代子

上嶋 浩順

宮下 亮一

森 麻衣子

稲村 ルキ

岡田 まゆみ

専門医：小林 玲音

奥 和典

田中 典子

善山 栄俊

野中 輝美

島崎 梓

木村 真也

小島 三貴子

認定病院番号：33

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	6679	5724
小児（6歳未満）の麻酔	330	230
帝王切開術の麻酔	330	310
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	155	155
胸部外科手術の麻酔	176	171
脳神経外科手術の麻酔	388	338

② 専門研修連携施設A

昭和大学横浜市北部病院

研修実施責任者：大江 克憲

専門研修指導医：小坂 誠 (麻酔・集中治療)

大江 克憲 (麻酔・集中治療・心臓麻酔)

山田 新 (麻酔)

岡本 健一郎 (麻酔・緩和医療・ペインクリニック)

西木戸 修 (麻酔・緩和医療・ペインクリニック)

専門医：志村 裕子 (麻酔)

坂本 篤紀 (麻酔)

吉田 愛 (麻酔)

藤井 智子 (麻酔)

釋尾 知春 (麻酔)

認定病院番号 928

特徴：

横浜の北部医療圏に立地する地域中核病院。

外科系・内科系の壁を取り払ったセンター制を採用。

小児外科から産科まで症例が豊富で、各種手術の麻酔管理および集中治療を幅広く経験できる。

心臓血管手術の麻酔も多く、内3分の1が小児心臓麻酔。

さらに、小児心臓カテーテルの麻酔管理も研修できる。

希望者は、ペインクリニック、緩和医療研修も可能。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	6043	5808
小児（6歳未満）の麻酔	447	422
帝王切開術の麻酔	380	370
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	278	268
胸部外科手術の麻酔	259	234
脳神経外科手術の麻酔	195	195

昭和大学藤が丘病院

研修実施責任者：桑迫 勇登
専門研修指導医：桑迫 勇登
岡安 理司
専門医：樋口 慧
竹本 真理子
小幡 輝之

認定病院番号：165

特徴：

横浜の北部医療圏に立地した大学の附属病院で、心臓外科や脳外科をはじめとした多くの診療科が揃っている。救命救急センターを併設しているため、外傷や緊急症例などの経験ができる

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	4353	4328
小児（6歳未満）の麻酔	53	53
帝王切開術の麻酔	188	188
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	138	138
胸部外科手術の麻酔	0	0
脳神経外科手術の麻酔	246	246

昭和大学江東豊洲病院

研修実施責任者：鈴木 尚志
専門研修指導医：鈴木 尚志
大塚 直樹
専門医：佐野 仁美
萩原 和歌子

認定病院番号 1182

特徴：

- 1) 東京オリンピックに向け発展途上の豊洲ベイエリアに2014年竣工した最新の設備で臨床ができる
- 2) 僧帽弁に対するMICSやアカラシアに対するPOEMなどで、世界的な術者と仕事ができる
- 3) 東京湾が見渡せる大きなICUフロアで集中治療に携わることができる

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	3619	3394
小児（6歳未満）の麻酔	120	120
帝王切開術の麻酔	177	177
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	125	85
胸部外科手術の麻酔	14	14
脳神経外科手術の麻酔	71	71

湘南鎌倉総合病院

研修実施責任者：小出 康弘

専門研修指導医：小出 康弘

野見山 延

渡辺 桂

佐多 奈歩

石橋 美智子

相野田 桂子

小澤 寛子

認定病院番号：1436

特徴：1. 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容

2. 低侵襲カテーテル手術への積極的関与（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）

3. 緊急手術が豊富で術中管理から術後 ICU 管理まで経験できる

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	5239	100
小児（6歳未満）の麻酔	174	25
帝王切開術の麻酔	116	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	207	25
胸部外科手術の麻酔	101	0
脳神経外科手術の麻酔	82	0

日本赤十字社医療センター

研修実施責任者：加藤 啓一

専門研修指導医：加藤 啓一（麻酔、集中治療）

渡辺 えり（麻酔、ペインクリニック）

柄澤 俊二（麻酔）

齋藤 豊（集中治療、麻酔）

小澤 和紀（麻酔）

諏訪 潤子（麻酔）

浅野 哲（集中治療、麻酔）

細川 麻衣子（麻酔、集中治療）

専門医：林 南穂子（麻酔、集中治療）

認定病院番号：76

特徴：がん診療、小児・周産期医療、救命救急及び災害救護を担う、地域の中核施設

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	4514	100
小児（6歳未満）の麻酔	414	25
帝王切開術の麻酔	177	10
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	92	0
胸部外科手術の麻酔	119	0
脳神経外科手術の麻酔	148	0

静岡済生会総合病院

研修実施責任者：山本 典正

専門研修指導医：山本 典正

認定病院番号：293

特徴：静岡という地域医療に根差した現場での医療が経験でき救急救命センターを持つ三次救急の施設である。

また各種、様々な症例が経験できる。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	1250	625
小児（6歳未満）の麻酔	26	13
帝王切開術の麻酔	11	6
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	66	33
胸部外科手術の麻酔	10	5
脳神経外科手術の麻酔	9	5

恩賜財団母子愛育会愛育病院

研修実施責任者：桜井 康良

専門研修指導医：桜井 康良

新原 朗子

伯水 崇史

中川 元文

認定病院番号：1685

特徴：

当院は総合周産期母子医療センターに指定されており、新生児医療を含めた周産期医療に特化している。症例数は下記の表に示す通り、豊富である。中でも麻酔分娩は全国有数の症例数を誇り、産科麻酔の研修には最適である。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	2420	1210
小児（6歳未満）の麻酔	93	46
帝王切開術の麻酔	662	331
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0	0
胸部外科手術の麻酔	0	0
脳神経外科手術の麻酔	0	0

岡山大学病院

研修実施責任者：森松 博史

専門研修指導医：森松 博史

岩崎 達雄

武田 吉正

佐藤 健治

小林 求

賀来 隆治

谷西 秀紀

清水 一好

松岡 義和

松崎 孝

末盛 智彦

谷口 新

林 真雄

金澤 伴幸
 鈴木 聡
 小坂 順子
 西谷 恭子
 川瀬 宏和
 黒田 浩佐
 西本 れい
 小野 大輔
 山之井 智子
 廣井 一正
 大谷 晋吉
 岡原 修司
 日笠 友起子
 木村 聡
 塩路 直弘
 依田 智美
 進 吉彰

認定病院番号 23

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	6607	200
小児（6歳未満）の麻酔	685	0
帝王切開術の麻酔	129	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	280	0
胸部外科手術の麻酔	451	0
脳神経外科手術の麻酔	203	0

公立大学法人 横浜市立大学附属病院

研修実施責任者：後藤 隆久

専門研修指導医：後藤 隆久（麻酔）

水野 祐介（麻酔）

藤本 啓子（麻酔）

菊池 龍明（医療安全・麻酔）

入江 友哉（麻酔・心臓麻酔）

水原 敬洋（麻酔・臨床統計）

岡村 健太 (麻酔・心臓麻酔)
 西村 祥一 (麻酔・救急)
 木下 充子 (麻酔)
 長嶺 祐介 (麻酔・心臓麻酔)
 柏木 静 (麻酔)
 藤本 寛子 (麻酔)
 大川 卓巳 (麻酔)
 入澤 朋子 (麻酔)
 北原 雅樹 (ペインクリニック)
 富永 陽介 (ペインクリニック・麻酔)
 土屋 智徳 (ペインクリニック・麻酔)
 山口 修 (集中治療)
 高木 俊介 (集中治療・救急)
 横瀬 真志 (集中治療・心臓麻酔)
 山口 嘉一 (集中治療)
 菅原 陽 (麻酔・集中治療)
 朝倉 彩子 (麻酔)
 玉田 尚 (麻酔・救急)
 専門医：松田 優子 (麻酔)
 東條 健太郎 (麻酔)
 吉田 輔 (集中治療)
 濱田 貴子 (集中治療)
 西周 祐美 (ペインクリニック・麻酔)
 菊池 賢 (麻酔)
 早川 翔 (集中治療)

認定病院番号 72

特徴：

大学病院本院にふさわしい大手術や、状態の悪い患者が多く、麻酔科医としてチャレンジングな症例を多く経験できる。神経ブロックも積極的に行っている。集中治療部は麻酔科の専属チームが常駐。臨床研究にも力を入れ、ヨーロッパ麻酔学会に毎年複数の演題を出している。手術室から東京湾が見え、近隣には八景島があるなど、最高の環境である。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	4652	100
小児（6歳未満）の麻酔	129	0
帝王切開術の麻酔	100	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	90	0

胸部外科手術の麻酔	131	0
脳神経外科手術の麻酔	192	0

公立大学法人 横浜市立大学附属市民総合医療センター

研修実施責任者：佐藤 仁

専門研修指導医：佐藤 仁（麻酔・救急）

川上 裕理（麻酔・心臓麻酔）

菅原 泰常（麻酔）

田澤 利治（緩和ケア・ペインクリニック）

水谷 健司（麻酔）

大塚 将秀（集中治療）

刈谷 隆之（集中治療）

内本 一宏（集中治療）

宮崎 敦（麻酔・心臓麻酔）

専門医：増渕 哲仁（麻酔・心臓麻酔）

美濃口 和洋（麻酔）

岡部 雪子（麻酔）

高橋 沙緒梨（麻酔）

桜井 龍（麻酔・心臓麻酔）

遠藤 大（麻酔）

藤井 ありさ（麻酔）

青木 真理子（集中治療・麻酔）

出井 真史（集中治療・麻酔）

横山 暢幸（集中治療・麻酔）

小倉 玲美（集中治療・麻酔）

認定病院番号 593

特徴：

3次救命救急センターと神奈川県総合周産期センターの指定を受ける、横浜市中心部の大学附属病院で、救急、周産期、循環器の症例が多い。ハイブリッド手術室をもち、TAVIも行っている。この集中治療部も麻酔科医の専属チームが常駐。2017年度からは集学的慢性痛センターも稼働を開始している。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	5318	100
小児（6歳未満）の麻酔	121	0
帝王切開術の麻酔	324	0
心臓血管手術の麻酔	222	40

(胸部大動脈手術を含む)		
胸部外科手術の麻酔	185	0
脳神経外科手術の麻酔	118	0

島根大学医学部附属病院

研修実施責任者：齊藤 洋司

専門研修指導医：齊藤 洋司

今町 憲貴

庄野 敦子

本岡 明浩

横井 信哉

橋本 愛

松田 高志

二階 哲朗

串崎 浩行

三原 亨

太田 淳一

佐倉 伸一

橋本 龍也

認定病院番号 202

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	4214	100
小児（6歳未満）の麻酔	396	0
帝王切開術の麻酔	132	0
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	149	0
胸部外科手術の麻酔	243	0
脳神経外科手術の麻酔	119	0

自治医科大学附属さいたま医療センター

研修実施責任者：石黒 芳紀

専門研修指導医：石黒 芳紀

讃井 将満

谷口 由枝

大塚 祐史

後藤 卓子
 岩井 健一
 下山 哲
 長友 香苗

麻酔科認定病院番号：961

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	5436	100
小児（6歳未満）の麻酔	101	0
帝王切開術の麻酔	167	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	461	25
胸部外科手術の麻酔	509	25
脳神経外科手術の麻酔	5436	100

社会医療法人財団 仁医会 牧田総合病院
 研修実施責任者：大竹 知子
 専門研修指導医：大竹 知子
 専門医：赤井 良太

麻酔科認定病院番号：994

特徴：麻酔研修するにあたり、病院規模に比して症例数が豊富です。たくさんの麻酔症例を経験できます。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	1032	1032
小児（6歳未満）の麻酔	0	0
帝王切開術の麻酔	0	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0	0
胸部外科手術の麻酔	4	4
脳神経外科手術の麻酔	6	6

がん研究会有明病院（がん研有明病院）

研修実施責任者：横田 美幸
 専門研修指導医：横田 美幸（麻酔、集中治療）
 田中 清高（麻酔、ペインクリニック）

関 誠 (麻醉、ペインクリニック)

長田 理 (麻醉)

平島 潤子 (麻醉)

七松 恭子 (麻醉)

森野 良蔵 (麻醉)

玄 運官 (麻醉)

山本 理恵 (麻醉)

蛭名 稔明 (麻醉)

三木 美津子 (麻醉)

大里 彰二郎 (麻醉)

山内 章裕 (麻醉)

認定病院番号 779

特徴：がん専門病院としての先進的な医療と豊富な症例、及び麻醉・手術、そして周術期管理、ICU・ペインクリニック・緩和の研修も可能

	本施設症例数	本プログラム分
麻醉科管理症例数	7404	150
小児（6歳未満）の麻醉	0	0
帝王切開術の麻醉	0	0
心臓血管手術の麻醉 （胸部大動脈手術を含む）	0	0
胸部外科手術の麻醉	476	150
脳神経外科手術の麻醉	0	0

東京労災病院

研修実施責任者：本多 信雅

専門研修指導医：本多 信雅

専門医：伊達 久子

麻醉科認定病院番号：262

特徴：地域医療支援病院および災害拠点病院として、地域医療に貢献している。小さな病院ならではの細かいところまで手の届いた熱血研修が特徴。

	本施設症例数	本プログラム分
麻醉科管理症例数	1653	1653
小児（6歳未満）の麻醉	28	28
帝王切開術の麻醉	58	58

心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	0	0
胸部外科手術の麻酔	33	33
脳神経外科手術の麻酔	112	112

新久喜総合病院

研修実施責任者：大川 浩文

専門研修指導医：大川 浩文

梶野 秀雄

認定病院番号：1554

特徴：

埼玉県北東部に位置し、地域に密着した“断らない病院”を目指している。心臓血管外科、脳外科、一般外科をはじめ整形・形成外科等の多数科のアクティビティが高く、定時手術の他、多数の緊急手術の麻酔管理が経験できる。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	1875	1875
小児（6歳未満）の麻酔	0	0
帝王切開術の麻酔	0	0
心臓血管手術の麻酔 (胸部大動脈手術を含む)	139	139
胸部外科手術の麻酔	90	90
脳神経外科手術の麻酔	80	80

③ 専門研修連携施設B

公益財団法人東京都保保健医療公社 荇原病院

研修実施責任者：米良 仁志

専門研修指導医：米良 仁志

加藤 隆文

橋本 誠

生方 祐介

小寺 志保

中村 繭子

専門医：須賀 大樹

中島 愛

竹口 蘭

認定病院番号：792

特徴：

当院には総合脳卒中センターがあり地域の急性期の脳血管疾患医療の中核となっている。脳神経外科の他、ほぼ全ての診療科に対応しており、偏りのない麻酔管理が経験できる。緊急手術も多く、救急診療における麻酔管理を学べる。

当院に診療科のない心臓外科、小児外科などの麻酔管理は専門研修連携施設で研修を行いより専門的な知識と経験を得られるようにしている。ペインクリニックは毎日行っており充実した研修ができる。緩和ケアチームの研修も行える。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	1690	100
小児（6歳未満）の麻酔	17	0
帝王切開術の麻酔	66	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	0	0
胸部外科手術の麻酔	34	0
脳神経外科手術の麻酔	67	0

東京都立小児総合医療センター

研修実施責任者：西部 伸一

専門研修指導医：西部 伸一

山本 信一

宮澤 典子

専門医：北村 英恵

認定病院番号：1468

特徴：

東京都立小児総合医療センターは、急性期医療や治療が困難な小児患者への高度専門治療と小児救命救急医療を提供する施設である。小児患者への総合的な医療を提供するため、産婦人科を除く全診療科があり、小児がん拠点病院、こども救命センターの指定を受けている。また、隣接する多摩総合医療センターとともにスーパー周産期センターの指定を受けており、緊急に母体救命処置を必要とする妊産褥婦を多摩総合医療センターで受け入れ、連携して治療を行っている。

麻酔管理全症例の6割強（約2500症例）が6歳未満小児患者で、多くの責任基幹研修施設のプログラムで関連研修施設となり、小児麻酔研修を行っている。麻酔管理全症例の約3割（約1200

件)で区域麻酔を併施しており、超音波エコー下神経ブロックを積極的に行っていて、指導体制を整えている。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	3948	50
小児（6歳未満）の麻酔	2364	50
帝王切開術の麻酔	0	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	146	0
胸部外科手術の麻酔	41	0
脳神経外科手術の麻酔	43	0

小倉記念病院

研修実施責任者：瀬尾 勝弘
 専門研修指導医：瀬尾 勝弘
 中島 研
 宮脇 宏
 角本 眞一
 近藤 香
 松田 憲昌
 栗林 淳也
 専門医：溝部 圭輔
 鴛渕 るみ
 松本 恵
 馬場 麻理子
 平野 芳枝

認定病院番号：52

特徴：

小倉記念病院は、成人患者のみに対応していますが、心臓手術症例、脳神経外科手術症例に特徴があります。循環器合併非心臓手術の麻酔症例も多く経験できます。集中治療にも力を入れています。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	2702	25
小児（6歳未満）の麻酔	0	0
帝王切開術の麻酔	0	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	455	25
胸部外科手術の麻酔	120	0

脳神経外科手術の麻酔	177	0
------------	-----	---

聖路加国際病院

研修実施責任者：長坂安子

日本麻酔科学会指導医・厚生労働省認定臨床研修指導医資格：

長坂 安子
橋本 学
藤田 信子
清水 美保
佐久間 麻里
林 督人
菅波 梓
篠田 麻衣子
篠浦 央
専門医：中井川直子
林 怜史

麻酔科認定病院番号：249

特徴：

聖路加国際病院の手術室は14室あり、心臓外科、小児外科、胸腹部、脳神経、無痛分娩、また先端医療（TAVI、ダヴィンチ手術など）も含めた、幅広い症例が経験できます。米国での麻酔臨床業務経験者もあり、世界標準の麻酔を提供し、該当者には留学への指導も行っています。

挿管・硬膜外カテーテル留置・中心静脈カテーテル留置、神経ブロックなど、様々な手技を習得し、合併症のある症例の麻酔も上級医の指導のもと独立して担当できます。心臓血管麻酔・産科麻酔など、将来サブスペシャリティー領域へ進む足がかりとなるトレーニングが受けられます。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	6337	100
小児（6歳未満）の麻酔	230	0
帝王切開術の麻酔	391	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	187	0
胸部外科手術の麻酔	127	0
脳神経外科手術の麻酔	191	0

地方独立行政法人広島市立病院機構 広島市立広島市民病院

研修実施責任者：鷹取 誠

専門研修指導医：鷹取 誠

武藤 純

藤中 和三

上原 健司

大宮 浩揮

後藤 隆司

亀山 実希

田窪 一誠

松本 森作

上野原 淳

麻酔科認定病院番号：170

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	6907	100
小児（6歳未満）の麻酔	660	0
帝王切開術の麻酔	435	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	272	0
胸部外科手術の麻酔	333	0
脳神経外科手術の麻酔	128	0

国立成育医療研究センター

研修実施責任者：鈴木 康之

専門研修指導医：鈴木 康之

田村 高子

糟谷 周吾

佐藤 正規

遠山 悟史

蜷川 純

麻酔科認定病院番号：87

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	5164	205
小児（6歳未満）の麻酔	2662	150
帝王切開術の麻酔	735	20
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	242	20
胸部外科手術の麻酔	56	5
脳神経外科手術の麻酔	180	10

埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷 紀文

専門研修指導医：蔵谷 紀文

濱屋 和泉

佐々木 麻美子

釜田 峰都

麻酔科認定病院番号：399

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	2527	150
小児（6歳未満）の麻酔	1545	100
帝王切開術の麻酔	0	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	169	5
胸部外科手術の麻酔	12	0
脳神経外科手術の麻酔	98	1

東京ベイ・浦安市川医療センター

研修実施責任者：小野寺 英貴

専門研修指導医：小野寺 英貴

麻酔科認定病院番号：1612

特徴：

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	2786	900
小児（6歳未満）の麻酔	0	0
帝王切開術の麻酔	0	0
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	367	67
胸部外科手術の麻酔	0	0
脳神経外科手術の麻酔	0	0

千葉メディカルセンター

研修実施責任者：三枝 宏彰

専門研修指導医：三枝 宏彰（麻酔、心臓麻酔、集中治療）

平井 えい子（麻酔、ペインクリニック）

熊切 由美子（麻酔）

認定病院番号 14295

特徴：一般的な外科手術麻酔だけでなく、血管内治療も含めた心血管系の症例を比較的多く経験することができ、体外循環使用例では体外循環管理も麻酔科が積極的に関与をしており、体外循環に関しても豊富に研鑽をつむことができる。

さらに、緊急症例が豊富なため術中管理のみならず、ICU管理の経験を含めた麻酔科医に必要な広範囲の研修が可能である。また、術後経過向上のため積極的な術後鎮痛にも取り組んでおり、様々な考えの鎮痛法も研修することができる。

	本施設症例数	本プログラム分
麻酔科管理症例数	2816	45
小児（6歳未満）の麻酔	0	0
帝王切開術の麻酔	103	20
心臓血管手術の麻酔 （胸部大動脈手術を含む）	204	25
胸部外科手術の麻酔	0	0
脳神経外科手術の麻酔	131	0

5. 募集定員

8名

6. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は、日本専門医機構に定められた方法により、期限までに（2017年10月ごろを予定）志望の研修プログラムに応募する。

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは、昭和大学病院麻酔科専門研修プログラムwebsite、電話、e-mail、郵送のいずれの方法でも可能である。

昭和大学病院 麻酔科専門医研修プログラム

連絡担当者：早野 直子

〒142-8666

東京都品川区旗の台1-5-8

TEL 03-3784-8575, FAX 03-3784-8357

E-mail: masuika@med.showa-u.ac.jp

Website: <http://showa-masui.jp/>

7. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は、4年間の専門研修を修了することで、安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し、国民の健康と福祉の増進に寄与することができるようになる。具体的には、専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる。

- 1) 十分な麻酔科領域、および麻酔科関連領域の専門知識と技能
- 2) 刻々と変わる臨床現場における、適切な臨床的判断能力、問題解決能力
- 3) 医の倫理に配慮し、診療を行う上での適切な態度、習慣
- 4) 常に進歩する医療・医学に則して、生涯を通じて研鑽を継続する向上心

麻酔科専門研修後には、大学院への進学やサブスペシャリティー領域の専門研修を開始する準備も整っており、専門医取得後もシームレスに次の段階に進み、個々のスキルアップを図ることが出来る。

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために、研修期間中に別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた専門知識、専門技能、学問的姿勢、医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する。

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識、技能、態度を備えるために、別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた経験すべき疾患・病態、経験すべき診療・検査、経験すべき麻酔症例、学術活動の経験目標を達成する。

このうちの経験症例に関して、原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが、地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り、研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち、専門研修指導医が指導した症例に限っては、専門研修の経験症例数として数えることができる。

8. 専門研修方法

別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に定められた1) 臨床現場での学習、2) 臨床現場を離れた学習、3) 自己学習により、専門医としてふさわしい水準の知識、技能、態度を修得する。

9. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って、下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する。

専門研修1年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し、ASA 1～2度の患者の通常の定時手術に対して、指導医の指導のもと、安全に周術期管理を行うことができる。

専門研修2年目

1年目で修得した技能、知識をさらに発展させ、全身状態の悪いASA 3度の患者の周術期管理やASA 1～2度の緊急手術の周術期管理を、指導医の指導のもと、安全に行うことができる。

専門研修3年目

心臓外科手術、胸部外科手術、脳神経外科手術、帝王切開手術、小児手術などを経験し、さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと、安全に行うことができる。また、ペインクリニック、集中治療、救急医療など関連領域の臨床に携わり、知識・技能を修得する。

専門研修4年目

3年目の経験をさらに発展させ、さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる。基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが、難易度の高い症例、緊急時などは適切に上級医をコールして、患者の安全を守ることができる。

10. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に、**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する。研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される。
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき、専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う。研修プログラム管理委員会は、各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し、専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる。

② 総括的评价

研修プログラム管理委員会において、専門研修4年次の最終月に、**専攻医研修実績フォーマット**、**研修実績および到達度評価表**、**指導記録フォーマット**をもとに、研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて、各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識、②専門技能、③医師として備えるべき学問的姿勢、倫理性、社会性、適性等を修得したかを総合的に評価し、専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する。

11. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標、経験すべき症例数を達成し、知識、技能、態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうか修了要件である。各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において、研修期間中に行われた形成的評価、総括的评价を元に修了判定が行われる。

12. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は、毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い、研修プログラム管理委員会に提出する。評価を行ったことで、専攻医が不利益を被らないように、研修プログラム統括責任者は、専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある。

研修プログラム統括管理者は、この評価に基づいて、すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために、自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する。

13. 専門研修の休止・中断、研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき、研修プログラム管理委員会が判断を行う。
- 出産あるいは疾病などに伴う6ヶ月以内の休止は1回までは研修期間に含まれる。
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は、連続して2年迄休止を認めることとする。休止期間は研修期間に含まれない。研修プログラムの休止回数に制限はなく、休止期間が連続して2年を越えていなければ、それまでの研修期間はすべて認められ、通算して4年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす。

- 2年を越えて研修プログラムを休止した場合は、それまでの研修期間は認められない。ただし、地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については、卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし2年以上の休止を認める。

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は、研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする。
- 専門研修の中断については、専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合、研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる。

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は、やむを得ない場合、研修期間中に研修プログラムを移動することができる。その際は移動元、移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて、日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある。麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める。

14. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には、地域医療の中核病院としての聖路加国際病院、東京労災病院、東京都保健医療公社荏原病院、湘南鎌倉総合病院、東京ベイ浦安・市川医療センター、千葉メディカルセンター、静岡済生会総合病院、広島市民病院、小倉記念病院など、都内だけでなく他県に所在する一般病院と幅広く連携している。医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し、適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため、専攻医は、大学病院だけでなく、関連する市中の研修連携施設においても一定の期間の麻酔研修を行い、当該地域における麻酔診療のニーズを理解する。

15. 専攻医の就業環境の整備機能(労務管理)

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります。専攻医の就業環境に関して、各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします。プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境(設備、労働時間、当直回数、勤務条件、給与なども含む)の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します。

年次評価を行う際、専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価(Evaluation)も行い、その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します。